

福島第一原発事故による放射性物質の 環境汚染シミュレーションに関する講習会

主催：文部科学省科学研究費新学術領域研究事業「福島第一原子力発電所事故
により放出された放射性核種の環境動態の学際的研究」



図：気象研全球輸送モデル MASINGAR-mk2 による福島原発由来 ^{137}Cs の濃度分布計算結果を
EXTRAISING/VDVGE 3次元可視化ツールで Google map 上に描画したもの

日時： 2013年10月28日（月）13:30 － 29日（火）12:00

場所： 東京大学 本郷キャンパス浅野地区 情報基盤センター1F 大演習室 2

定員： 41名（先着）

参加費： 無料（事前登録制）

懇親会： 10月28日（火）18:00－20:00 東京大学・本郷キャンパス

その他： 演習室には端末があるので、PCの持参は不要です。OSは、Windows

と Macintosh が選べます。ソースコードやツールの保存を希望する方は、USB メモリスティックを持参ください（3GB 以上）。

申し込み： 以下のページで 10 月 8 日までに行ってください。

http://ebcrpa.jamstec.go.jp/~takigawa/ISSET-R_A01/

お問合せ先：

梶野瑞王（気象研究所 環境・応用気象研究部）：kajino@mri-jma.go.jp

滝川雅之（海洋研究開発機構 大気物質循環研究チーム）：mtakigawa@mac.com

概要：

前半は、実際に最先端の研究活動に用いられる放射性核種の動態モデルの概要と適用研究に関する講義を、領域大気モデルを用いた東北・関東地方を中心としたローカルな輸送、全球大気モデルを用いた北半球循環、海洋モデルを用いた福島近海から太平洋広域に及ぶ拡散現象を取り上げます。

後半は、FORTRAN 言語を用いた移流・拡散・沈着コードと、気象庁メソ解析データ（GPV-MSM）を使い、東北・関東スケールの領域拡散数値実験を行って、EXTRAWING/VDVGE 3D 可視化ツールにより Google Earth 上で描画するまでの実習を行います。すべて商用目的以外では無償のツールを用います。計算コードは数値計算の初心者向けの内容ですが、3D 可視化技術は数値計算の専門家にとっても興味深い内容です。

プログラム：

（1 日目 10/28 月）

13:30-13:40 開会・趣旨説明（東京大学大気海洋研究所 中島映至 教授）

13:40-14:20 領域大気モデル（海洋研究開発機構 滝川雅之氏）

14:30-15:10 全球大気モデル（気象研究所 田中泰宙氏）

15:20-16:00 海洋モデル（電力中央研究所 津旨大輔氏）

16:10-16:50 移流・拡散モデルの解説と動作説明（気象研究所 梶野瑞王氏）

16:50-17:00 翌日の案内、解散

18:00- 本郷キャンパスで懇親会

（2 日目 10/29 火）

9:30-10:30 EXTRAWING/VDVGE 講義（海洋研究開発機構 川原慎太郎氏、杉山徹氏）

10:30-12:00 VDVGE を用いた移流・拡散モデル結果の可視化実習

（サポート：川原、杉山、滝川、梶野）

（Macintosh サポート：滝川）